関係人口
受入事例集



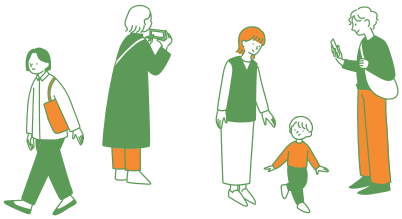
「やってみたい」と「手伝って」をマッチング

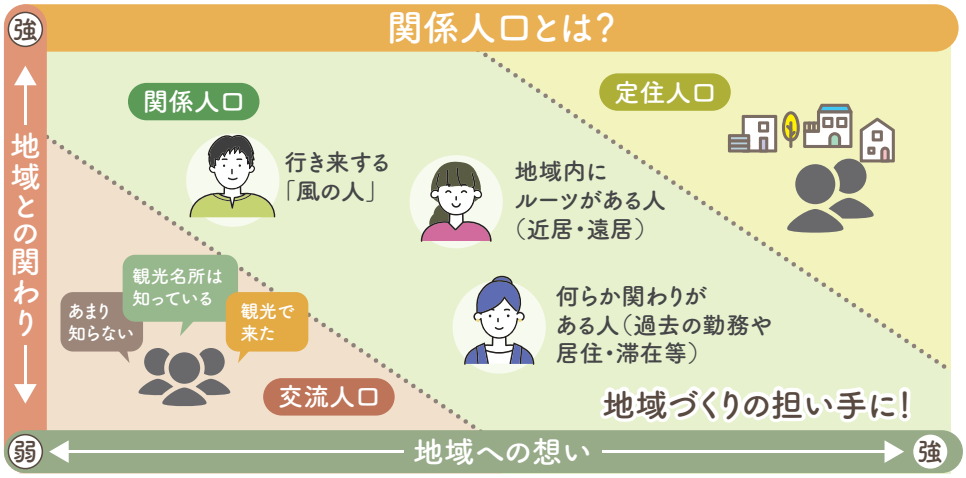
Vol.6
2026-2027版

公益財団法人 ふるさと島根定住財団

関係人口

「関係人口」とは、その地域に住んでいる「定住人口」や、観光や出張などで一時的に訪れる「交流人口」に加えて、地域に継続的な関わりや愛着を持ち、何らかの形で地域に関わる人々を指す新しい考え方です。





出典：総務省二地域居住・関係人口ポータルサイト「関係人口とは？」（https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.html）を元に編集

地域の新たな仲間「関係人口」！

人口減少は島根県最大の課題です。人口減少に伴い、各地で“担い手不足”が顕在化し、地域で当たり前に行われてきた営みを継続することが困難になっています。人口の減少が深刻化しているのは島根県だけではなく、全国で人材不足、後継者不足が起こっています。

このような背景のもと、限られた人材を地域間で“競争”して獲得するのではなく、複数の地域と継続して関わる、地域の新たな仲間「関係人口」との“ご縁をつないでいこう”という取り組みが全国各地で生まれています。



定住財団で取り組む「関係人口施策＝地域づくりの仲間集め」

私たち定住財団は、令和3年から「関係人口」が「地域づくりの仲間」として活動に関わるきっかけづくりのための事業をスタート。その地域に住んでいない方や団体の構成員でない方も活動に参加できる仕組みとして、「しまね関係人口マッチング・交流サイト しまっち！」を開設し、今年で5周年を迎えました。

「しまっち！」は島根の地域のみなさんが地域活動を掲載し、「地域に関わりたい！」という想いを持った方が活動に参加できるマッチングサイト。地域のみなさんがこれまで大切にしてきた活動や想いを未来につなぐため、「関係人口の力も借りて活動に挑戦したい」と、チャレンジするみなさんの活動を後押しできるようなサイトづくりに取り組んでいます。



関係人口と地域づくりに取り組むことで受入地域に期待できる段階的な効果

- ☑ 活動負荷が下がる
- ☑ 活動の活性化・持続化
- ☑ 地域内の活動量UP
- ☑ 地域内からも関わる人が登場
- ☑ 地域のファン増加
- ☑ 関係人口からの魅力発信
- ☑ 来訪者・移住検討者の増加

etc…

5周年を迎え、ひろがる しまっち!活用

令和3年にスタートした「しまっち!」は今年5周年を迎え、これまでに600件を超えるプログラムが掲載されました。年々、島根県内各地で活用が広がり、現在は17市町村の団体で活用されています。今後、地域をより盛り上げていくために関係人口の受入れは欠かせません。これからも「しまっち!」の活用を通じ、地域の新たな仲間との継続的なつながりを築いていただけたらと思います。

■参加サポーター延べ…… 2,315人
（うち県内サポーター 1,273人）
■プログラム掲載数…… 682件
（令和8年9月末現在）



清掃・環境整備

隠岐の島町 一般社団法人
隠岐ジオパークツアーデスク

島旅ついでに!隠岐の島のウユニ塩湖「油井の前の州」でビーチクリーンに参加しよう

地域の人とサポーターとの間で自然な会話が生まれ、地区の自然や海洋ごみの現状にもふれてもらう機会となりました!



環境整備・場づくり

大田市 一般社団法人
石見銀山みらいコンソーシアム

石見銀山で竹伐採!「竹林の遊び場づくり」

地域外の方にも関心を持ってもらい、遊び場が出来上がっていく過程をともに楽しむことができました!



空き家活用

松江市 美保関まちなみ研究会

美保関の古民家お片付け&DIY作戦!参加者募集

空き家の清掃活動をきっかけに、新たに美保関へ興味を持ってくださる方が増えました!



伝統継承

雲南市 大東七夕応援計画

大東七夕祭りを一緒につくる!450年以上続く地域の祭りに関わってみませんか?

事前準備から関わってもらい、当日は七夕行列を一緒に練り歩いてもらうことで一体感が生まれ、祭りを盛り上げることができました!



イベント運営

津和野町 つわの蚤の市実行委員会

つわの蚤の市運営サポーター募集!〜津和野で「循環」を一緒につくる1日〜

地域の若者が企画・運営するイベント。サポーターのなかには津和野高校卒業生も!楽しみながら活躍していただきました!





「関係人口」は島根"県外"の方だけではない!?

「しまっち!」に掲載している活動には、島根県内在住の方も参加できます。島根県内にお住まいの方の中にも、地域の活動に取り組みたい意欲を持ちながらも活動に参加できない方がいます。また、島根県に移住して日が浅く、地域の方とのつながりが希薄な方、ご自身の興味・関心から他の地域の取り組みに参加してみたいという前向きな考えを持っている方も多数います。

「しまっち!」はそんなみなさんをつなぎ、主体的に地域の活動に参画するプレイヤーが育っていくためのきっかけにもなっています。

どうやって使う？
どんなサイト？

「しまっち!」を活用してみよう!

地域活動に参加してみたい**関係人口（サポーター）**と、島根の地域団体のみなさんをつなぐマッチングサイトです。地域の団体が**プログラム主催者（オーナー）**となって、さまざまな地域活動を掲載でき、サポーターを募集できます。すべて無料で利用いただけますのでお気軽にご活用ください！

利用イメージ



オーナー
地域団体・NPO等がプログラムのサポーターを募集

サポーター
関心のある活動や気になる地域のプログラムに参加



例えばこんな使い方

- ☑ 昔から開催している**イベント・祭事**の運営助っ人を募集
- ☑ 草刈りをはじめとする**環境整備活動**の手伝いを募集
- ☑ **商品開発**などのアイデアを募るオンライン企画への参加募集
- ☑ **県外開催**のイベントで現地サポーターを募集

使える機能

① プログラム・コミュニティ・オーナー情報の掲載

プログラム 活動を掲載し、サポーターの募集を行います。

コミュニティ オーナーとサポーターの関係づくりに役立ちます。

オーナー情報 活動実績、今後の活動の展望、WEBサイトやSNSアカウントなどを掲載できます。

② 活動レポートの作成

プログラムの実施結果を掲載する記事のこと。レポートはサイトに公開されます。興味を持ちながらも参加できなかったサポーターへ情報提供することで、次回以降の参加につなげたり、サポーターとの関係構築に役立ちます。

③ プログラム参加申込者へメール送信

参加申込みをしたサポーターへメールを一斉送信できます。天候の悪化等でプログラムが中止となった場合などにも、スムーズに連絡をとれます。また、次回の開催をお知らせするツールとして活用できます。

しまっち!活用の流れ

オーナー

しまっち!活用前の課題・お困りごと

- 人口減少で、年々メンバーが減っている
- 活動するメンバーが偏りマンネリ化
- イベント、行事などの手が足りない
- 団体を立ち上げたばかりで仲間がほしい!
- 後継者が必要

etc…

定住財団

ご不明な点や、課題点がありましたら、私たちふるさと島根定住財団までご相談ください！

掲載準備

プログラム申請
（すべてWEB上で申請可能です）

- しまっち!オーナー登録（団体情報登録）
- 記事用の原稿用意
- 記事で使用する画像データを用意

オーナー登録ページ

プログラムページ作成・掲載作業

◎必要に応じて追加でいただきたい情報の確認をします
◎掲載までには1～2週間程度お時間をいただきます

しまっち!プログラム掲載

【しまっち!に掲載する主な情報】

- 団体の紹介
- 地域の紹介
- 活動の背景
- プログラム内容
- サポーターの役割
- 当日スケジュール
- その他必要情報（当日の持ち物、服装、集合場所など）

サポーターへの事前連絡

プログラム実施

活動レポート掲載申請

活動レポート掲載作業

活動レポート掲載

当日の様子をしまっち!に掲載することで、活動の周知や次回募集の際の後押しになります!



しまっち！オーナーの心得

まずはチャレンジ！しまっち！活用のコツ

その1 早め早めのプログラム掲載がより多くのサポーターを集めるコツ！

申請後、サイト掲載までに必要なページ案の作成、審査、調整に1～2週間程度お時間をいただきます。**余裕をもって準備**を進めましょう。実施日の1ヵ月前掲載を目指しましょう！



その2 掲載する写真は人が写ったカットがいい！（笑顔があるとなおよし）

プログラム掲載の際には、写真のセレクトがとても大切。記事を見ている方に、楽しそうな様子や、そこで活躍する地域のみなさんの笑顔を届けられると、サポーターの申込みが多くなる傾向が！



その3 活動の背景や当事者の思いを盛り込むページを作成すると訴求力UP！

ストーリーをしっかりと載せることで、団体や活動内容により共感してくれる仲間集めができます。



その4 サポーターの役割・当日やってもらうことは明確に！

プログラムを見た人が当日何をしたら良いか具体的にイメージができると「やってみたい」という意欲が高まり、申込みにつながりやすいです。



その5 掲載すれば“人が集まる”わけではない！プログラムをしっかりPRしよう！

掲載したからといって自動的にサポーターが集まってくるわけではありません。申込みが「0」なこともあります。オーナー自身もプログラムページをSNSやお知り合いの方などに紹介してください！また、継続してプログラムを上げたり、レポートを載せたりすることで、次回の申込みにつながり、活動の周知促進につながります！

その6 サポーターへの事前連絡を忘れずに！（便利なマイページ機能あり！）

申込後、サポーターはオーナーからの連絡待ちの状態です。すぐに受け入れ可否の連絡をしましょう。また、当日までの変更点や共有事項の連絡はマイページから一括送信することもできます。



その7 しまっち！参加証明書を用意しておこう

「しまサポ助成金」には参加証明書が必要です!当日あわてないように事前に準備しておきましょう。



その8 サポーターのみなさんのことを紹介しよう！





当日は、一緒に活動する仲間たちへ、しまっち！サポーターのことを紹介しましょう。受入側の地域のみなさんからも、自己紹介があると安心です。
※しまっち！シール（名札）も用意しています！ぜひ、ご活用ください。

その9 サポーターにイベントの概要や作業の流れを説明しよう！

サポーターの役割をしっかりと伝えて、当日迷わないようにしましょう。地域のこと、活動のこと、人のことを紹介するとなおグッド！



その10 サポーターとの交流を楽しもう！

サポーターは単なる労働力ではなく、みなさんの仲間として参加しています。無理におもてなしをするのではなく、何気ないコミュニケーションなど、まずは集まったみなさんに関心を持って接することから信頼関係が生まれていきます。



その11 サポーターへのお礼メールや、次回のしまっち！のお知らせをしましょう！

プログラム終了後はお礼の連絡を入れておくと次の参加にもつながります!次にプログラムを掲載する際にも、過去の参加者へ向けた情報発信ができます。せっかく生まれたつながりを上手に活かしていきましょう。





雲南市

里山照らし隊（草刈り応援隊）

草刈りで変わったのは、景色だけじゃない。人が集まり、地域に芽生えた誇り

島根県雲南市吉田町民谷の宇山地区で、地域の未来を考えながら活動する「里山照らし隊」。農村景観を守るため、地域外の人も参加できる「草刈り応援隊」を続けています。草刈りをきっかけに、地域の人との交流や、何度も訪れる人とのつながりが育っています。



里山照らし隊のあゆみ

- 2016年 「里山照らし隊」発足
- 2017年 「草刈り応援隊」始動
- 2022年 「しまっち！」での募集をスタート
- 2026年 10周年を迎え 毎回50人を超える参加が！

「草刈りに人が来るわけない」そこから始まった挑戦

高齢化で草刈りの負担が増す中、2017年に地域外からも参加者を募る「草刈り応援隊」が本格始動。しかし、初年度はほとんど人が集まらず、地元でも「地区外の人に草刈りをさせるなんて」という声があったそうです。翌年には知人に電話をかけ、一人ずつ参加を呼びかけるなど、隊長の影山さんたちは手探りの状態で活動を始めました。





高齢化が進む農村で、景観を守るために欠かせない草刈り。地域外の人にも協力を求める試みは、手探りのスタートでした。

草刈りを入口に広がる関係

参加のきっかけ：草刈りへの興味・里山への関心・知人からの紹介

草刈り応援隊

その後に生まれた関わり方：再び草刈りに参加する／友人や知人を連れて訪れる／地域の祭りや行事に参加する／自分の経験や特技を地域で活かす

最初は草刈りだけの関わりだったのが「ジブンゴト」に変わってくる！



里山照らし隊で隊長を務める影山さん。

サポーターの声

「草刈りがしたくて…」
草刈りが趣味で刈らせてくれる場所を探してました!皆さんあたたかく受け入れてくださって楽しく作業出来ました。また来年も来ます！

「できることが増えて嬉しかった」
初めての草刈りでしたが、丁寧に教えていただき今度からは一人前に草刈りができることが嬉しいです。やってみたいという思いから、挑戦してよかったです。

「みんなが気軽に集まれる場」
顔見知りの人も初対面の人も気兼ねなく交流することができ、自分も地域の一員になれたみたいで、まるで第二のふるさとのような場所だと思います。

草刈りから祭りの参加まで何度も通う、地域の仲間に

「車がたくさん来ると、にぎやかだった昔を思い出す。とてもうれしい」。影山さんが教えてくれた地元住民の言葉です。かつては外から人を迎えることに戸惑う声もありましたが、今では来訪を喜ぶ人が増えたそう。遠方から繰り返し通う人や、地域の祭りに演者として参加する人も現れ、草刈りを超えた関係が育っています。影山さんが大切にしているのは「応援隊は単なる労働力ではない」ということ。里山照らし隊がやっている「手法」だけを切り取って他の地域で真似するだけではうまくいきません。サポーターを受け入れるときの地域の姿勢や、人の魅力が多くの人に共感されることで、無理のない継続につながります。



作業後の食事や会話も大切な交流の時間。草刈りだけで終わらない関わりが、次の訪問につながることもあります。



草刈りだけでなく、撮影や食事の準備なども参加の形の一つ。自分にできることが地域での新しい役割につながります。

草刈りで変わった地域の心終わりがない、だから続ける

運営の手が足りず、コロナ禍には活動をやめようと考えたこともあったという影山さん。それでも人が再び訪れるようになり、受け入れ方を工夫しながら活動を続けてきました。景観を守るだけでなく、地域の人が誇りを持てるようになることが大きな喜び。「草刈り応援隊の活動にはゴールはない。だから続ける」と語ります。



新しい人との出会いが増えた「しまっち!」も参加の入口に

知人への声かけが中心だった参加者募集に、後から加わった「しまっち!」。影山さんは、活用後に参加者が増え、リピーターも多くなったと感じています。東京から通う人が周囲に活動を紹介したり、大学生が友人を誘って訪れたり。参加者自身が新たなつながりを生む存在にもなっています。

サポーター受入れPOINT

Q 草刈り未経験の参加者はどうするの?

A 最初に安全講習会をおこない基礎を学び、草刈りのベテランとペアになって草刈り機の使い方をレクチャーします。

Q 作業で事故・ケガなどの場合の対策は?

A 保険に加入し、安全に作業をしてもらいます。(保険料は参加費として徴収する場合も)

Q 交流会・食事の準備は大変じゃない?

A 無理して豪華にすると続けられないので、地域の人たちと協力しながらできる範囲で準備します。時にはサポーターにもお手伝いをしてもらい、交流会を楽しんでいます。草刈り後に食べる地元食材を使った料理やおにぎりは格別です。

オススメ!

関係人口アドバイザー派遣

サポーターの受入れや地域づくりに関する専門的、実践的なノウハウや知識及び経験を有するアドバイザーを派遣します!

つながりコラム

草刈りの経験が別の地域にも「比田の草刈り応援隊」の事例

団体名 **え〜ひだカンパニー株式会社**

安来市広瀬町比田地区で、住民主体の地域づくりに取り組む「え〜ひだカンパニー」。農産物の販売や交流イベントなどを手掛けています。数年前に里山照らし隊を視察し、活動や受け入れの工夫について話を聞きました。2025年に比田地区でも「草刈り応援隊」が始まり、「しまっち!」でサポーターを募集。リピーターも着々と増え地域の人たちと草刈りや交流を行っています。



比田地区でも、草刈りと地域の人たちとの交流を組み合わせた活動が始まっています。

▼レポート

詳しい活動内容はこちら▼



川本町

島根フィルティーズ×（一社）かわもと暮らし

「応援する」から一歩先へ。広がる関わり方、つながる人たち

川本町を拠点とする“山陰初”の女子硬式野球クラブ「島根フィルティーズ」。地域住民や企業・団体など、さまざまな人に支えられながら活動しています。そんな球団を支える仲間の輪に、「しまっち！」を通じて参加するサポーターも加わりました。観客席から声援を送るだけではない、島根フィルティーズとの新しい関わり方が広がっています。



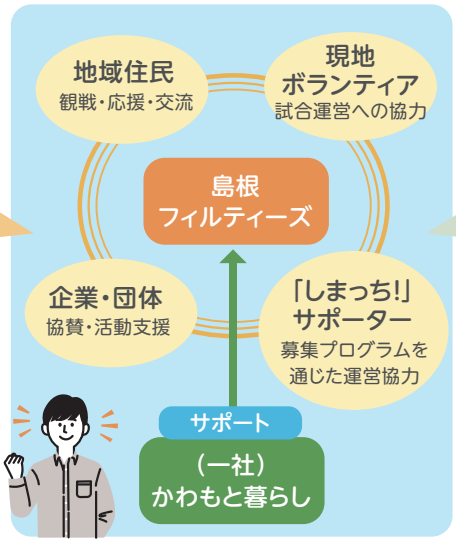
球団を支えるのは選手だけじゃない。地域とつながる応援の輪

試合会場には、選手やスタッフ以外にも、運営を手伝う人、観客席から応援する人など、さまざまな支え手がいます。そのひとつが、「しまっち！」を通じて参加するサポーター。地域や球団と新たにつながり、試合運営などに協力する人たちが現れています。

団体名 島根フィルティーズ



川本町を拠点に活動する女子硬式野球クラブ。試合や練習のほか、地域イベントへの参加や野球教室などを通じて、地域との交流や次世代の育成にも取り組んでいます。



団体名 （一社）かわもと暮らし



川本町で移住支援・観光イベントの企画運営等を行う団体。島根フィルティーズの立ち上げに関わり、現在も運営団体として物販、配信、選手のキャリア支援などを行っています。

野球経験がなくても大丈夫！得意なことで試合をサポート

ホーム戦の運営には、試合の進行を支える大きな役割から小さな役割まで、さまざまな仕事があります。「しまっち！」では、こうした会場運営を手伝ってくれるサポーターを募集してきました。2025年7月のリーグ戦には、急な募集にもかかわらず3人が参加。野球に関する知識や経験を持つ人も加わり、試合運営を支えました。

その後も、野球が好きな人だけでなく、写真撮影が得意な人やチームを応援したい人などが参加。自分の興味や得意なことを活かせるのも、この活動のおもしろいところです。



サポーターが担った5つの役割



①写真撮影
試合や選手の様子を撮影。チームの活動記録にも役立つ仕事。



②物販
チームグッズや飲食物の販売、来場者への対応などをサポート。



③得点表示
経験者は得点ボードやSBO表示など、試合の進行を支える役割。



④会場準備
スポンサーボードの設置など、試合を迎えるための準備。



⑤応援演奏
楽器演奏など、自分の特技を活かして選手たちを応援。

サポーターの声

「久しぶりに野球の現場へ」
以前は野球に関わっていたものの、しばらく離れていた方からは、サポーターとして再び野球に関わり、楽しい時間を過ごせたとの声が。

「撮った写真を喜んでもらえた」
繰り返し撮影を担当した方からは、写真を評価してもらえたことがうれしかった、次回への参加のはげみになったという声も。

「参加前は不安だったが…」
役に立てるか心配だったという方も、スタッフや選手たち、他のサポーターや現地ボランティアの温かな受け入れによって、充実した一日に。

初めての受け入れには不安も。繰り返す参加が心強い支えに

球団の試合運営には、選手以外の人の協力が欠かせません。運営側の人手不足もあり、そこで「しまっち!」を活用し、ホーム戦を支えるサポーターを募集しました。初めての受け入れでは、どんな人が来てくれるのか分からないという不安感がありました。それでも複数回募集し実際に活動してみると、サポーターはそれぞれの持ち場で力を発揮してくれました。

2025年11月の記念試合では、過去に「しまっち!」から参加した人や町民など6人が運営をサポート。深い霧の中で準備に追われる場面もありましたが、臨機応変に対応してくれるサポーターの姿がありました。

一度きりではなく、繰り返し参加してくれる人も。小さな役割を通して、多様な人との関わりが生まれ、単に人手が増えるだけではない、顔の見える心強い関係が育っています。

受け入れを重ねて見えてきたこと

最初の不安

「どんな人が来てくれるのだろう?」



実際に受け入れて

- 経験者は経験や知識を活かし、初めての人は教わりながら、それぞれの役割で活動。



見えてきた変化

- 「しまっち!」を入口に、直接オーナーとやりとりをおこない、再び参加してくれる人が現れ、運営を支える仲間に。



受け入れ団体の声



観客として応援するだけでなく、球団を下支えしてくれるファンが生まれることをうれしく感じています。リピーターも多く、気兼ねなく仲間として一緒に活動できる関係になってきました。

球団代表・大久保一則さん



地域の人たちとの交流も積極的な選手たち。
選手の姿を身近に感じることが、応援のきっかけにもつながっているそう。

選手との交流が応援のきっかけに。球場の外でも広がる地域の輪

島根フィルティーズの選手たちは、試合や練習だけでなく、保育所でのサポート活動や老人クラブの行事に参加するなど、川本町の人たちと協力しながら地域を支えています。

こうした関わりをきっかけに選手のファンになった子どもや高齢者が、球場へ応援に来てくれることもあるそう。

(一社)かわもと暮らしが「川本町を明るくすることのできる一番の存在」と語るように、フィルティーズは地域にとっても大切な存在になっています。野球を通じたつながりは、球場の外にも広がっているのです。



詳しい活動内容はこちら▼

観戦もお手伝いも入口はいろいろ。一度の参加が次のつながりへ

試合を観戦する人、運営を手伝う人、得意な写真撮影でチームを支える人。フィルティーズへの関わり方は、一つではありません。「しまっち!」を通じて初めて参加し、再び球場へ足を運ぶ人もいます。最初の入口は違っても、一緒に活動した経験が次の関わりにつながることも。

普段の活動の中にも、誰かの得意なことを活かせる役割があるかもしれません。フィルティーズの取り組みは、そんな新しい仲間づくりのヒントになりそうです。

いろいろな入口から生まれる関係



しまっち!はこんな使い方も

NPO法人の「しまっち!」活用事例



「しまっち!」を通じたお手伝いが、新しい出会いや次のステップにつながることも。2つのNPO法人の経験から、サポーターの受け入れで得た気づきや工夫を紹介します。

CASE 1

団体名 NPO法人さくらおろち（雲南市）

プログラム 「尾原ダムクレストゲート放流イベント」のお手伝い募集

3人が支えた放流イベント 初めての受け入れで得た気づき

雲南市・尾原ダム周辺で環境整備やイベント運営に取り組むNPO法人さくらおろち。地域の高齢化に伴い、イベント運営の負担が増える中、2026年3月のクレストゲート放流イベントでは、スタッフが手を回しにくい記録写真の撮影係などを「しまっち!」で募集しました。

集まった3人は写真撮影やグッズ販売、缶バッジ制作補助などを担当。どんな人が来るのか不安もありましたが、事前にメールで丁寧なやり取りを重ねたことで、安心して当日を迎えられました。サポーターは自ら仕事を確認しながら動き、イベントの実行委員会からも翌年のサポーターの活動に期待する声が。一方、当日は慌ただしく、団体側にはサポーターと十分に交流できなかったという反省も残りました。この経験から、お願いしたい役割を具体的に伝えることに加え、お互いの顔が見える関係をつくる大切さにも気づいたそうです。





スタッフが持ち場に追われるイベント当日。サポーターの自主的な行動が、運営の大きな支えになりました。

この事例から見えたこと

- 依頼する役割は具体的に示す
- 事前の連絡が受け入れの安心に
- 交流時間の確保が重要

▼活動レポート

CASE 2

団体名 NPO法人シニアプロジェクト（出雲市）

プログラム 「シニアのためのカルチャー講座」のお手伝い募集

お手伝いから講師になった人も 小さな参加が次の役割につながる

出雲市で高齢者向けのカルチャー講座を行っているNPO法人シニアプロジェクト。運営メンバーの高齢化が進み、準備や受付などを担う人を増やしたいと考えていました。同じ出雲市で活動するNPO法人かえる倶楽部の勧めをきっかけに「しまっち!」を知り、普段の講座でサポーターを募集することに。

参加人数は0人、3人、1人とまちまちではありますが、良い出会いがたくさんありました。講座名称に「シニアのための」とあることから自分は対象外だなと思っていたが、お手伝いという形なら参加できる、というサポーターもいました。「古民家」「原爆」など、講座内容が伝わる言葉をタイトルに入れるとサポーターに関心を持ってもらいやすいことにも気づきました。また、サポーターの中に、生前整理の知識を持っている人がいたため、講座の講師を依頼することになった、という嬉しい発展もありました。





活動の中心メンバーが高齢化する中、新しい世代との接点づくりも大きな課題になっています。

この事例から見えたこと

- 参加人数だけでは測れない成果も
- お手伝いが新たな役割につながる
- 募集名の言葉選びも大切

▼活動レポート

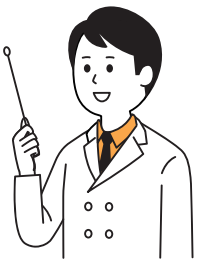
2つの事例から見えてきたこと

- 普段の活動にも、外部の人が参加できる役割がある
- 参加人数だけでなく、出会いから生まれる変化にも目を向ける
- 受け入れた経験を振り返り、次の募集や関係づくりに活かす

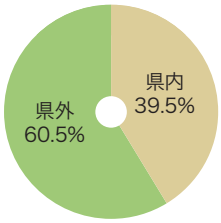


しまっち！利用実績（令和8年9月末現在）

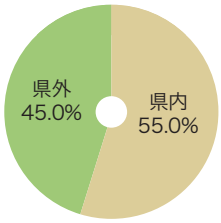
関係人口は、県外の方に限りません。県内にお住まいのサポーターのみなさんも積極的にプログラムに参加しています。



サポーター登録者の居住地



プログラム申込者の居住地



- オーナー登録数…… 320団体
- サポーター登録者数…… 2,876人
- プログラム申込者数… のべ2,315人
- プログラム掲載件数…… 682件
- マッチング件数…… 527件

サポーターの声





人の温かさ、景色、自然等地域の魅力をたくさん感じました。ただ現地に行くだけではなく、地域の方とお話をするきっかけが生まれたことが大変嬉しかったです。**自分の知らなかった世界を知れて、考え方が少しだけ変わった気がします！**

夏休みに初めて参加しました。普段話すことのない地元の大人と一緒にお祭りの準備をし、**地域の人たちが本気で祭りを大事にしていることがわかりました。**

平日はパソコンの前で仕事をしています。休みの日に、**地域の人と一緒に汗を流し、体も心もリフレッシュできて、次の週も頑張ろうと思えます。**

オーナーさんと直接お話ができ、**参加者同士の交流の機会があったので期待していた以上の経験ができた。**作業について細やかに説明してくださり、不安が解消されたうえでお手伝いが出来たことが良かったです。

初めての田植えでしたが、地域の方がとても丁寧に教えてくださり、**普段お会いすることの少ない世代の方とも一緒に交流することができ、楽しみながら過ごすことができました。**また、普段お米を育てておられる方への感謝の気持ちが育ちました。

今まで購入して楽しむだけの立場だったが、収穫から梱包までのお手伝いをやってみて、**こんな風にして私たちの手元に届いているのだな！**と農家さんのお仕事が理解できました。植物相手だと読めないこともあり、とても大変な作業を毎日こなしておられることに改めて感謝の気持ちが芽生えました。

（サポーターアンケートより抜粋）

プログラムに参加することで
地域への貢献意欲が高まり、
地域のことを知るきっかけにもなります！

オーナーの声





活動内容に共感してくれる方が地域に入ってくれて、話をするうちに**地域のことも好きになってくれた**のが良かった。「また来たい」と言ってもらい、**新しい仲間が増えたことがありがたかった。**

サポーターさんの新しい視点を聞き、活動へ取り入れることができました。**外から見る地域はまた違う魅力があるのだということを知れた**し、地域のことをより深く知ってもらういい機会となりました。

普段関わることのできない若い世代との交流を楽しむことができ、また作業を教えることで**活動のモチベーションアップにつながりました。**

関係人口のみなさんと一緒に活動することで
負担が軽減され、**新たな気づき**や**可能性**を得られることも！

遠方からの参加の一助に！

しまサポ助成金

詳しくはこちら▼

「しまっち！」にサポーター登録し、「しまっち！」を通じて助成対象プログラムに申込・参加した場合の交通費と宿泊費を一部支援する制度。県内外問わず活用できる助成金なので、「しまっち！」のプログラム参加がしやすくなります。

しまサポ助成金（しまっち！サポーター地域活動参画助成金）

対　象	しまっち！にサポーター登録し、しまっち！を通じて助成対象プログラムへ申込・参加された方
対象経費	プログラムに参加するために居住地から目的地の間を移動する際に要する交通費（片道分）、宿泊費（半額）
助成限度	1回につき上限10,000円、1名につき2回まで

地域づくりを支える

関係人口受入事業助成金

詳しくはこちら▼

「しまっち！」に掲載するプログラム（関係人口とともに取り組む持続可能な地域づくり活動）を応援します！

対　象	しまっち！にオーナー登録している県内の NPO法人、民間団体やグループ（構成員5名以上）、商業法人等
対象事業	関係人口の受入れを促進する取組み

地域活動等支援・関連サイト

島根県内の地域と関係人口とのマッチング・交流サイト
しまっち！ しまね関係人口マッチング・交流サイト
https://shi-match.jp/

セミナー情報・地域活動支援メニューなど
しまね地域活動応援サイト フレフレしまね
https://furefure-shimane.jp/

NPO・ボランティア活動を行っている個人・団体等の支援、助成金情報など
島根いきいき広場 県民活動応援サイト Shimane Ikiiki Hiroba
https://www.shimane-ikiiki.jp/

民泊・田舎体験を行うしまね田舎ツーリズムに関する情報など
おいでよ！しまね しまね田舎ツーリズムポータルサイト
https://www.oideyo-shimane.jp/

お問い合わせ・発行元：公益財団法人 ふるさと島根定住財団

松江事務局（地域活動支援課）
〒690-0003 島根県松江市朝日町478-18 松江テルサ3階
TEL：0852-28-0690 E-mail：chiiki@teiju.or.jp

石見事務所
〒697-0034 島根県浜田市相生町1391-8 シティパルク浜田2階
TEL：0855-25-1600 E-mail：iwami@teiju.or.jp

県内市町村の下記窓口でも関係人口の受入れについてご相談いただけます。

松江市	定住企業立地推進課	TEL 0852-55-5215	川本町	まちづくり推進課	TEL 0855-72-0634
浜田市	定住関係人口推進課	TEL 0855-25-9511	美郷町	活気あふれる町づくり課	TEL 0855-75-1212
出雲市	政策企画課	TEL 0853-21-6612	邑南町	地域みらい課	TEL 0855-95-1117
益田市	地域振興課	TEL 0856-31-0173	津和野町	つわの暮らし推進課	TEL 0856-74-0092
大田市	まちづくり定住課	TEL 0854-83-8030	吉賀町	企画課	TEL 0856-77-1437
安来市	定住産業課	TEL 0854-23-3178	海士町	財政課	TEL 08514-2-0114
江津市	地域振興課	TEL 0855-52-7926	西ノ島町	政策企画課	TEL 08514-6-0028
雲南市	政策推進課	TEL 0854-40-1011	知夫村	地域創生課	TEL 08514-8-2211
奥出雲町	奥出雲創生課	TEL 0854-54-2514	隠岐の島町	地域振興課	TEL 08512-2-8570
飯南町	まちづくり推進課	TEL 0854-76-2864			

令和8年10月現在